

1. 人口の現状分析

(1) 人口動向分析

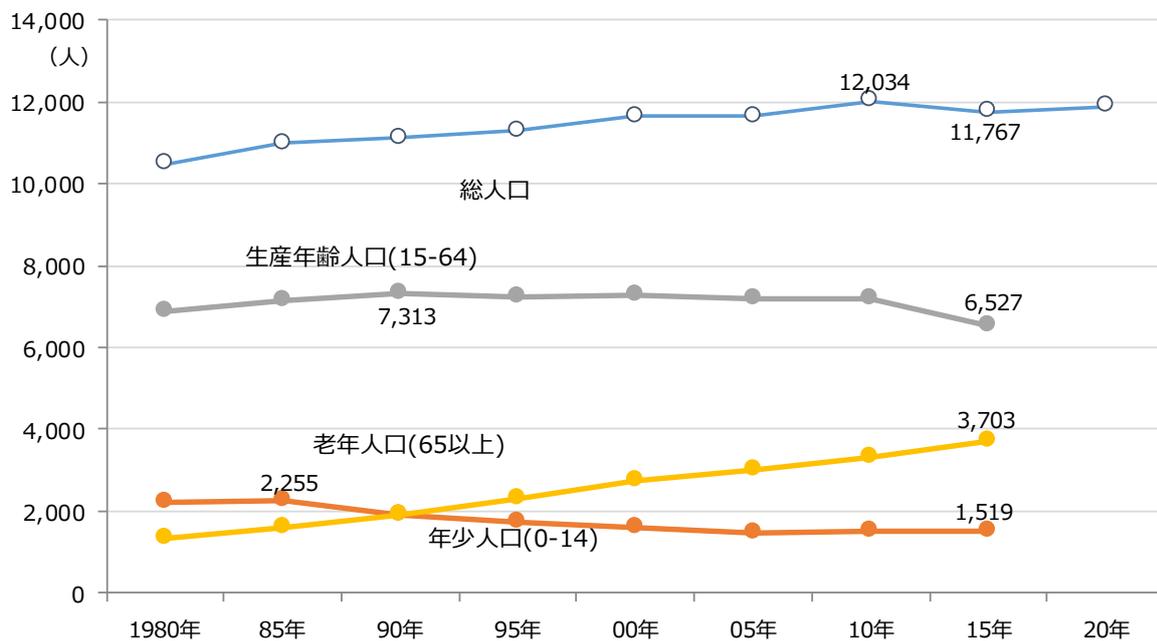
① 総人口

本町の国勢調査人口は1970年以降増加が続き2010年には12,034人となった。2015年には11,767人と微減となったものの、2020年には11,897人と増加に転じています。

生産年齢人口は、1990年以降、減少が続いています。

年少人口については、2005年までは減少傾向にありましたが、近年では増加に転じています。

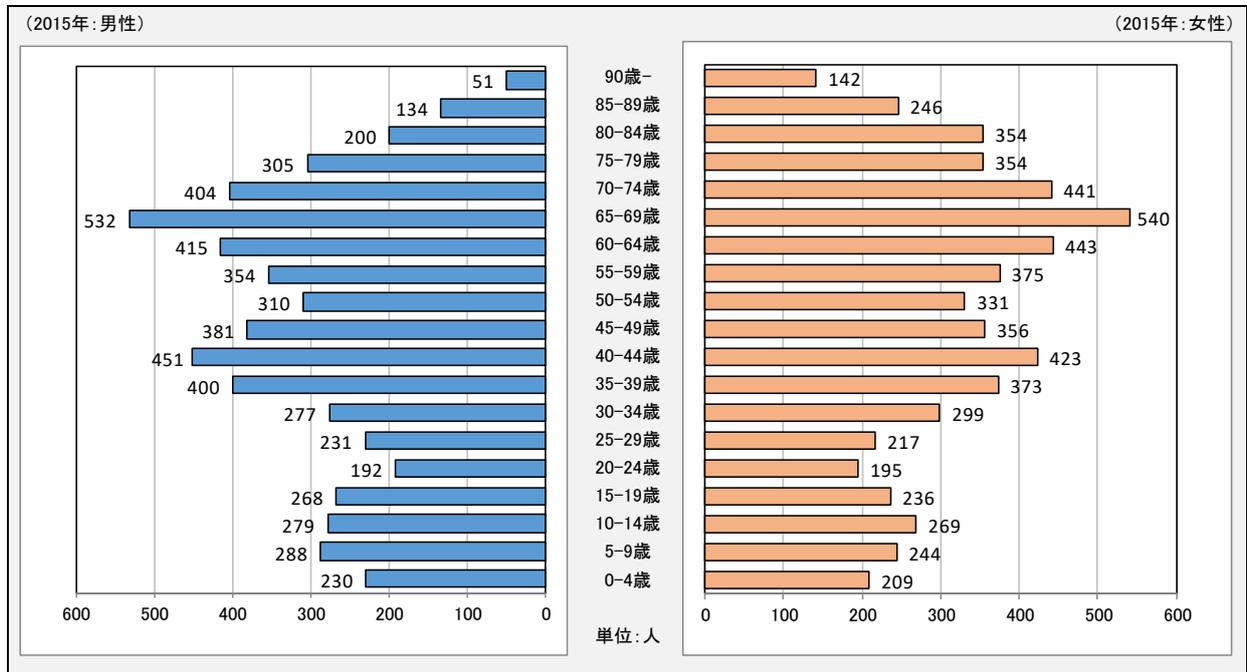
一方、老年人口（65歳以上人口）は一貫して増加しており、人口規模は維持されていますが、高齢化が進行しています。



出所：国勢調査（2020年は年齢別人口は公表前のため総人口のみ記載）

② 年齢別人口

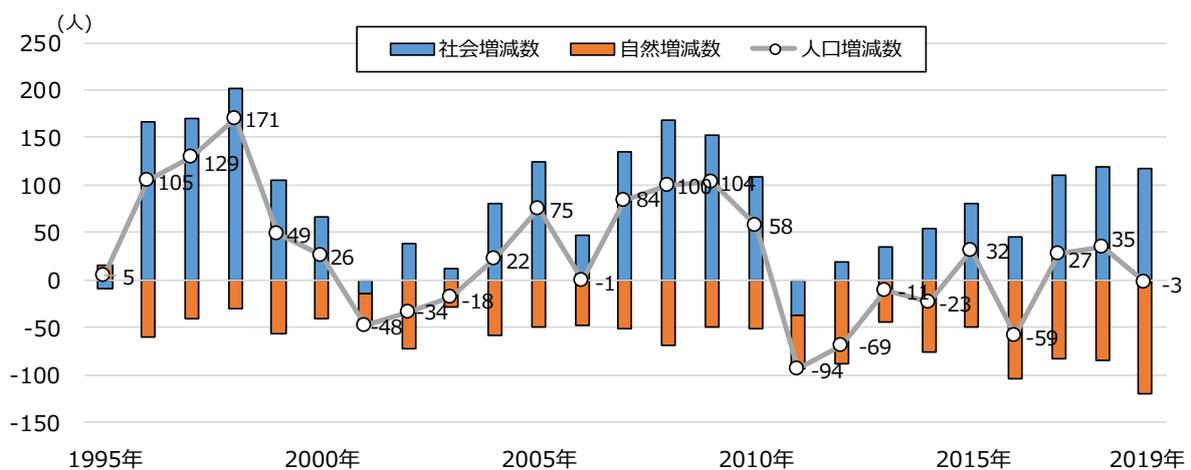
本町の年齢別人口は、団塊の世代とその子ども世代である団塊ジュニア世代の人口が多くなっています。



出所:平成27年国勢調査

③ 自然増減・社会増減

一貫して、死亡数が出生数を上回る自然減少の状態が継続しているなかで、2012年以降は転入が転出を上回る社会増加が拡大することで人口規模が維持されています。

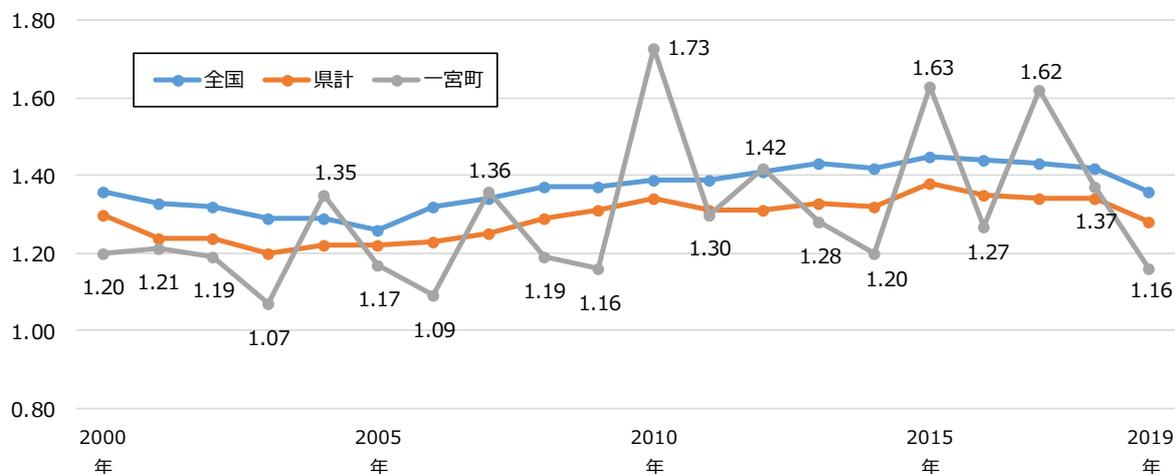


出所: REASAS (地域経済分析システム)【総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工】

【注記】2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

④ 合計特殊出生率

直近5年平均では1.41と、千葉県（1.34）を上回り、全国（1.42）と同水準となっています。



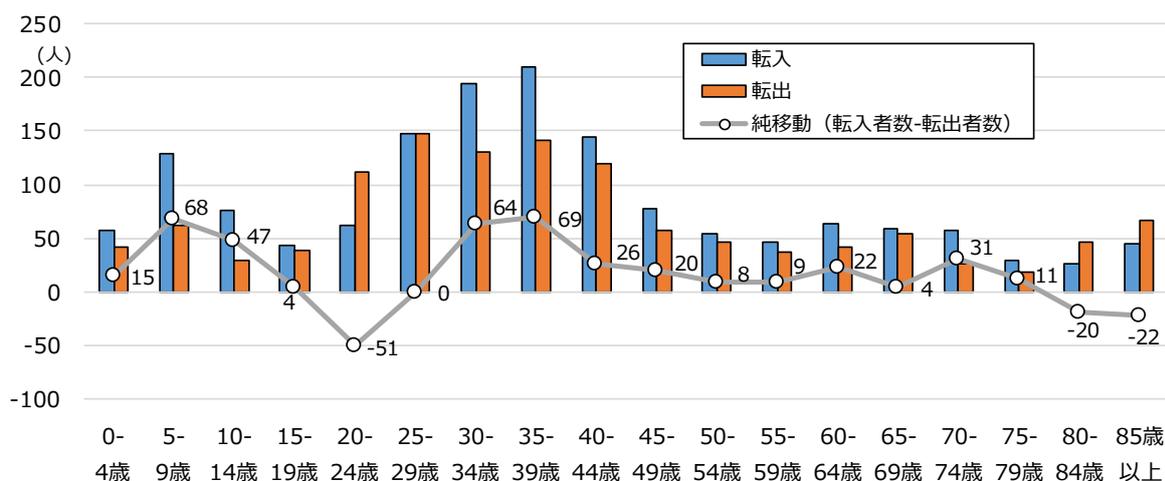
出所：千葉県「合計特殊出生率」

⑤ 年齢別社会移動

国勢調査における社会移動（2010年から2015年）をみると、305人の転入超過となっています。性別では男性（146人増）、女性（159人増）とほぼ同数となっています。

年齢別では、35-39歳（69人増）、5-9歳（68人増）、30-34歳（64人増）の順となっており、子育て世代が転入の中心となっています。

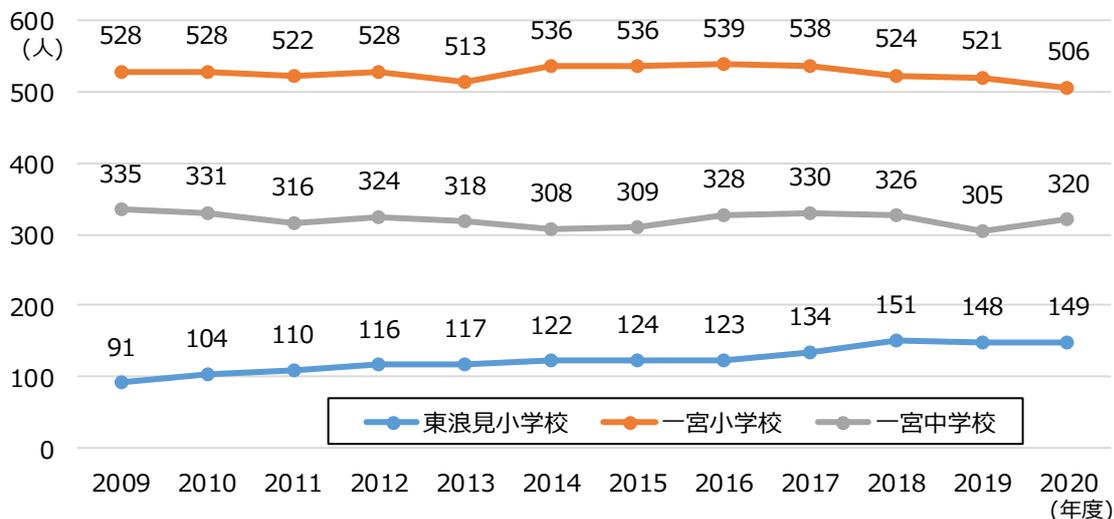
一方で就学・就職期である20-24歳（51人減少）および80歳以上の年齢層で転出超過となっています。



出所：平成27年国勢調査

⑥ 児童・生徒数

一宮町の生徒・児童数は、近年安定して推移していますが、2017年度の1,002人をピークに微減となっており、2020年度は975人となっています。



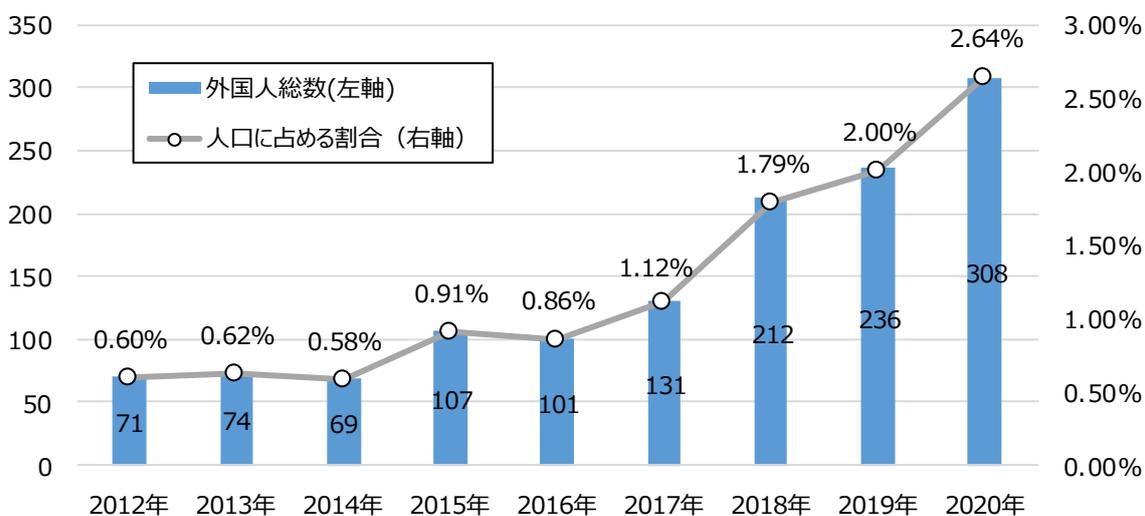
出所：千葉県「学校基本統計」

⑦ 外国人数

本町の外国人数は増加が続いており、2020年は308人となっています。

地域別では、中国110人（35.7%）、ベトナム70人（22.7%）などアジアが中心（91.2%）となっており、2018年以降は中国、ベトナムが顕著に増加しています。

人口に占める割合は2.64%となっており、千葉県（2.66%）と同水準ですが、全国平均（2.29%）は上回っています。



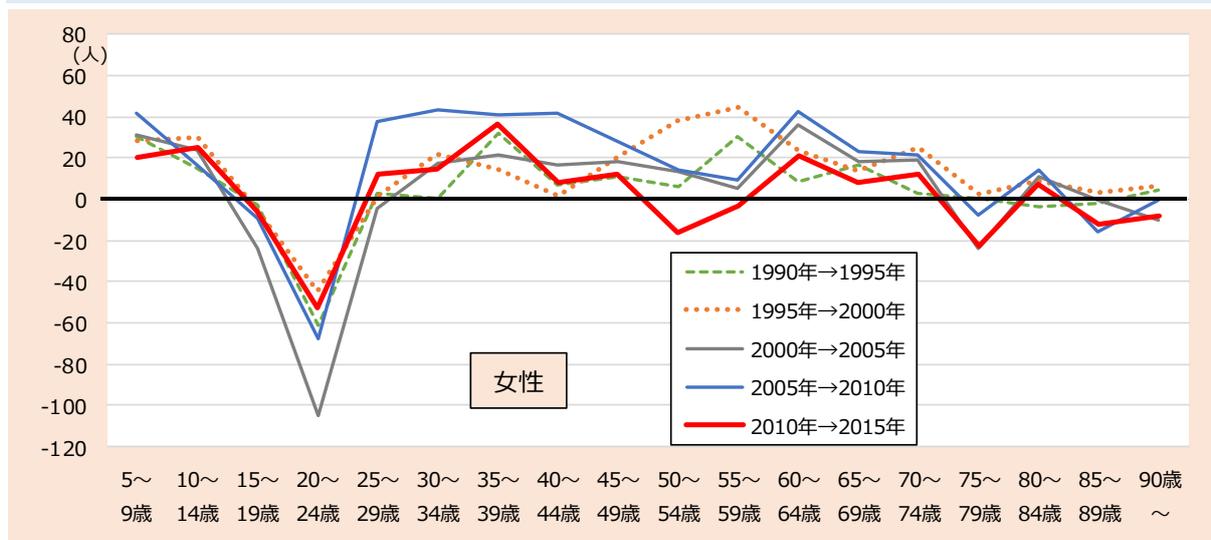
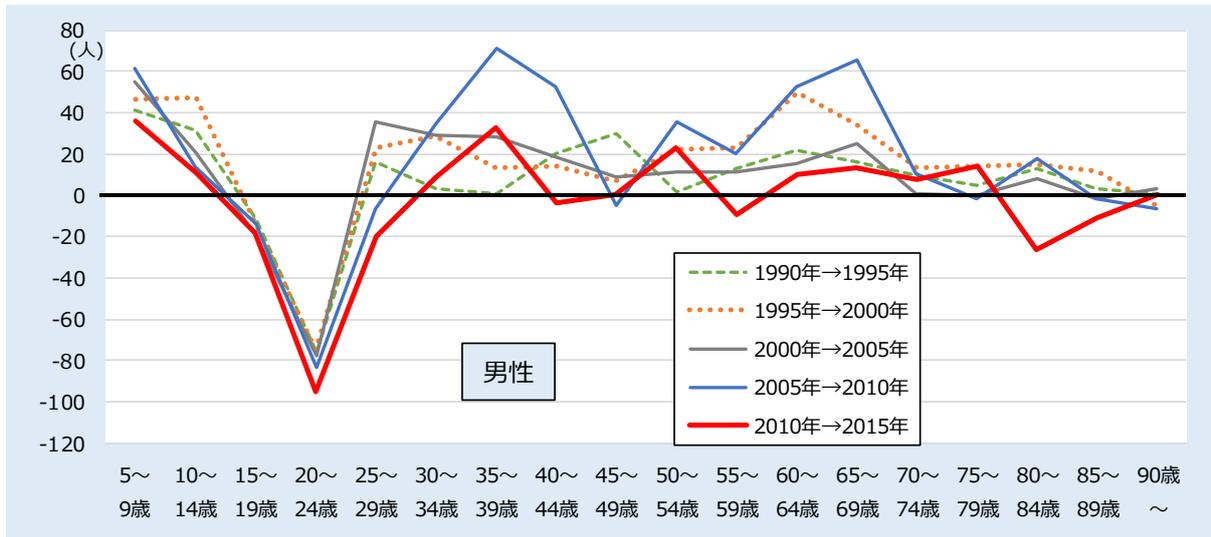
出所：千葉県国際課「住民基本台帳による外国人数（各年12月末現在）」

（注）人口に占める割合に用いた総人口は千葉県統計課「毎月常住人口調査（各年10月1日現在）」

⑧ 年齢別社会移動の経年変化(男女別)

年齢別の社会移動数の推移をみると、男女とも一貫して「20～24歳」における転出超過が顕著となっています。

2010→2015年で転入超過幅が大きい30歳から49歳の層をみると、2000→2005年、2005→2010年に比べ、直近の2010→2015年は転入超過数が減少しています。

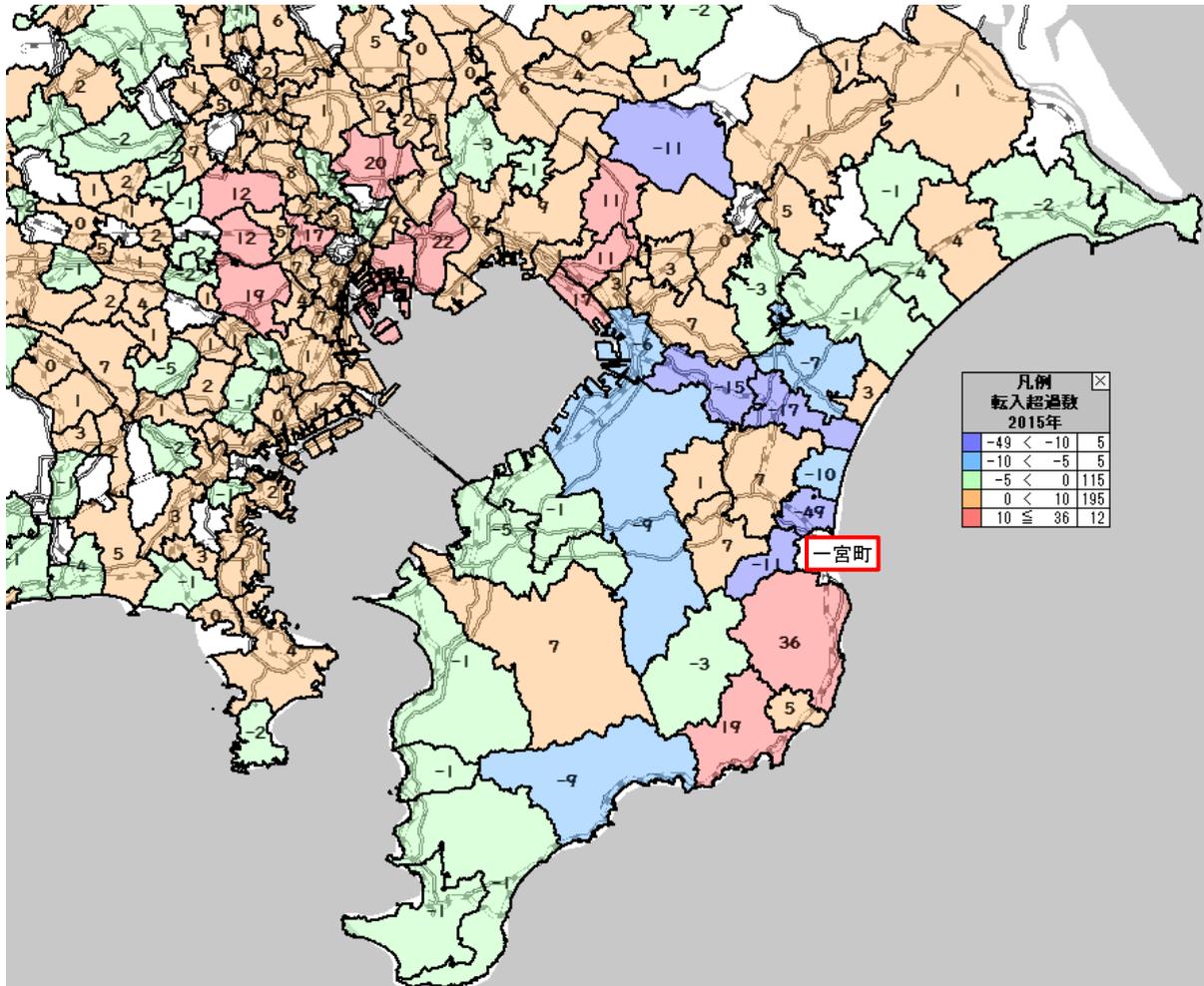


出所：国勢調査

⑨ 転入元・転出先自治体

転出超過は、「長生村(▲49人)」、「大網白里市(▲17人)」、「千葉市緑区(▲15人)」など近隣自治体への流出が目立っています。

一方、転入超過は、隣接市である「いすみ市(36人)」、「勝浦市(19人)」とともに、「東京都江戸川区(22人)」、「東京都江東区(20人)」、「東京都足立区(20人)」、「東京都世田谷区(19人)」など都市部からの転入も目立っています。



出所：平成27年国勢調査

⑩ 年齢別転入元・転出先自治体(25-44歳)

■転入者数

順位	転入元市区町村	転入者数
1	茂原市	97
2	いすみ市	67
3	長生村	19
4	千葉市美浜区	14
4	大網白里市	14
4	東京都江戸川区	14
7	勝浦市	13
7	東京都江東区	13
9	千葉市中央区	12
9	市原市	12
9	睦沢町	12

■転出者数

順位	転出先市区町村	転出者数
1	茂原市	86
2	いすみ市	43
3	長生村	41
4	市原市	26
5	千葉市緑区	25
6	大網白里市	14
7	睦沢町	13
8	千葉市中央区	12
9	白子町	11
10	市川市	10

■純移動人口

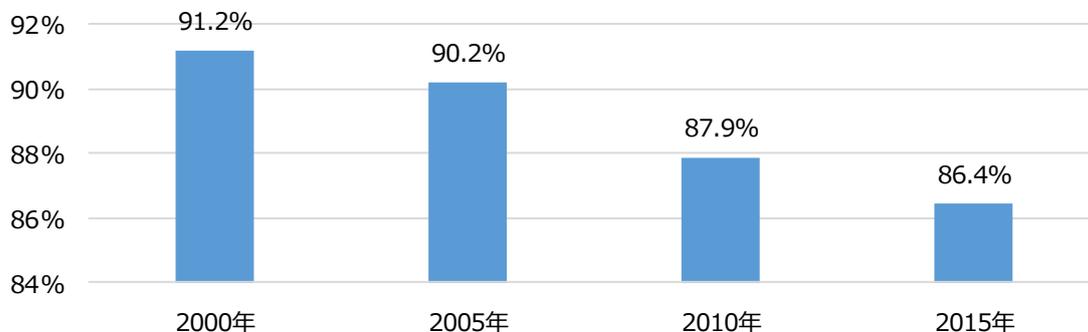
順位	市区町村	純移動人口
1	いすみ市	24
2	東京都江戸川区	12
3	千葉市美浜区	11
3	茂原市	11
5	東京都江東区	10
5	東京都足立区	10
7	勝浦市	8
7	東京都墨田区	8
9	東京都新宿区	7
9	東京都世田谷区	7
9	東京都杉並区	7

出所：平成27年国勢調査

⑪ 昼間人口

昼間人口をみると、減少傾向が続いており、2015年には86.4%となっています。

昼間人口比率の減少は、本町で従業・通学する就業者数・通学者数の減少の影響が大きくなっています。



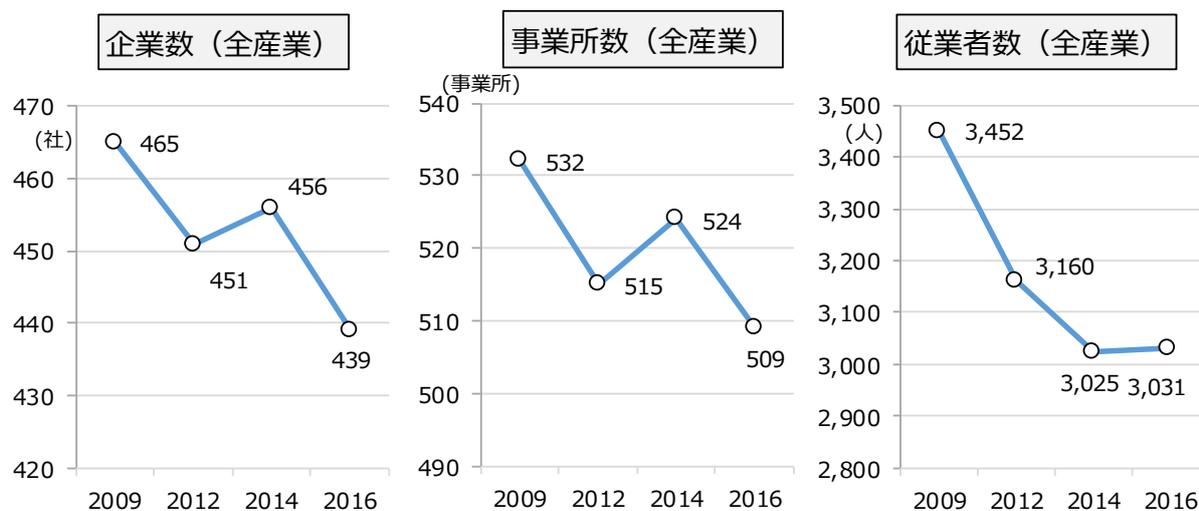
出所：国勢調査

(単位：人)

	国勢調査					
	総人口	当地に常住する就業者・通学者数	当地で従業・通学する就業者・通学者数	うち 就業者数	昼間人口	昼夜間人口比率
2000年	11,648	6,402	5,374	4,604	10,620	91.2%
2005年	11,656	6,261	5,118	4,448	10,513	90.2%
2010年	12,034	6,092	4,632	4,104	10,574	87.9%
2015年	11,767	6,103	4,507	4,014	10,171	86.4%

⑫ 産業別就業者

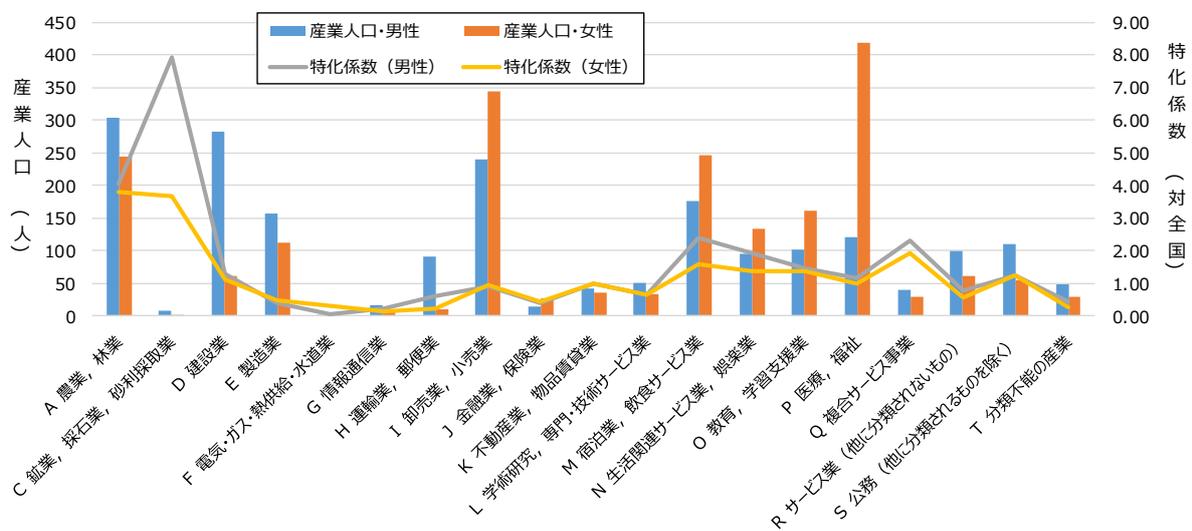
本町における企業数、事業所数は減少傾向となっています。一方、従業者数は減少傾向から横這いの動きとなっています。



出所：総務省「経済センサス」

一宮町における産業別の就業者数をみると、「卸売・小売業（584人、構成比14.6%）」、「農業、林業（547人、同13.6%）」、「医療、福祉（539人、同13.4%）」などが多くなっており、本町において雇用の場を提供している産業となっています。

産業別特化係数¹をみると、男性では「鉱業、採石業、砂利採取業（7.91）」、「農業、林業（4.03）」、「宿泊業、サービス業（2.38）」、「複合サービス業（2.32）」などが高く、女性では「農業、林業（3.79）」、「鉱業、採石業、砂利採取業（3.68）」、「複合サービス業（1.95）」、「宿泊業、飲食サービス業（1.57）」などが高く、就業面で全国に比べ相対的に特化している産業となっています。

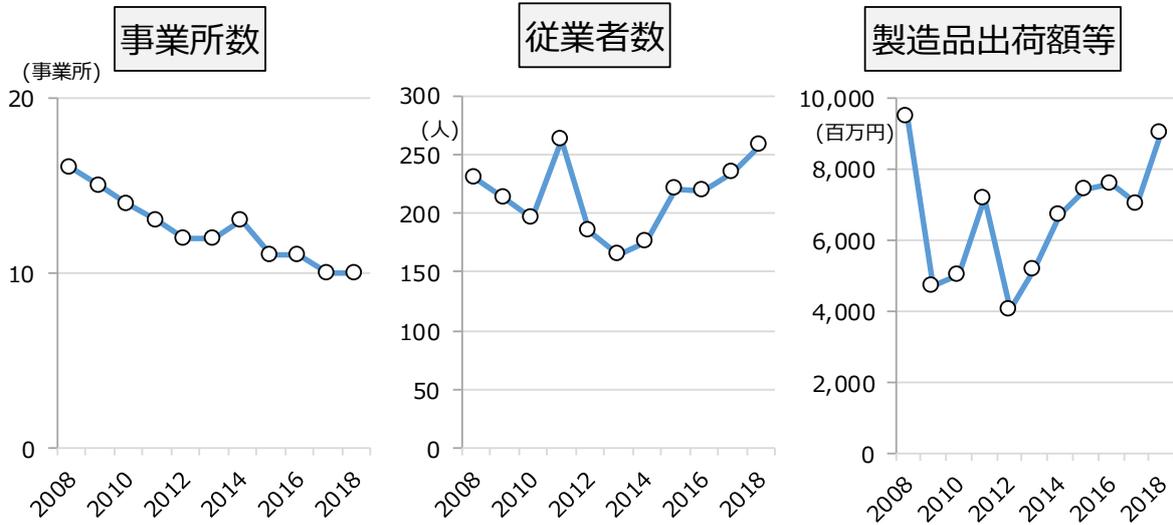


出所：総務省統計局「平成27年国勢調査（従業地・通学地による人口・就業状態等集計）」

¹ A産業の特化係数＝一宮町におけるA産業の就業者比率／全国におけるA産業の就業者比率

【製造業】

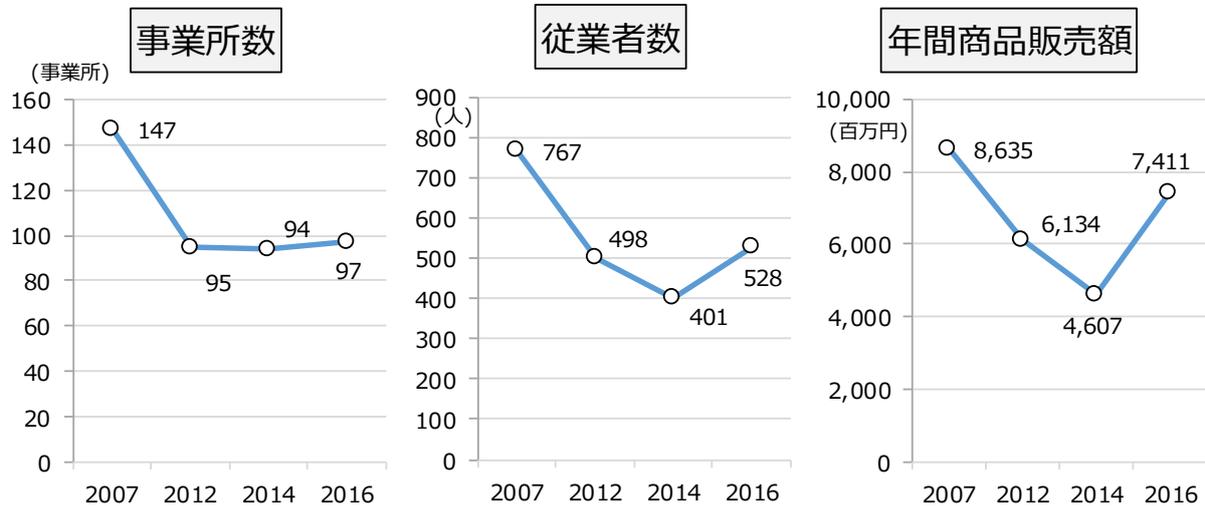
製造業の事業所数は減少が続く一方で、従業者数、製造品出荷額等は2013年以降、増加傾向となっています。



出所：経済産業省「工業統計」

【小売業】

小売業の事業所数は横這いとなっています。従業者数、年間商品販売額は2007年以降、減少傾向を辿っていましたが、2016年はともに増加に転じています。

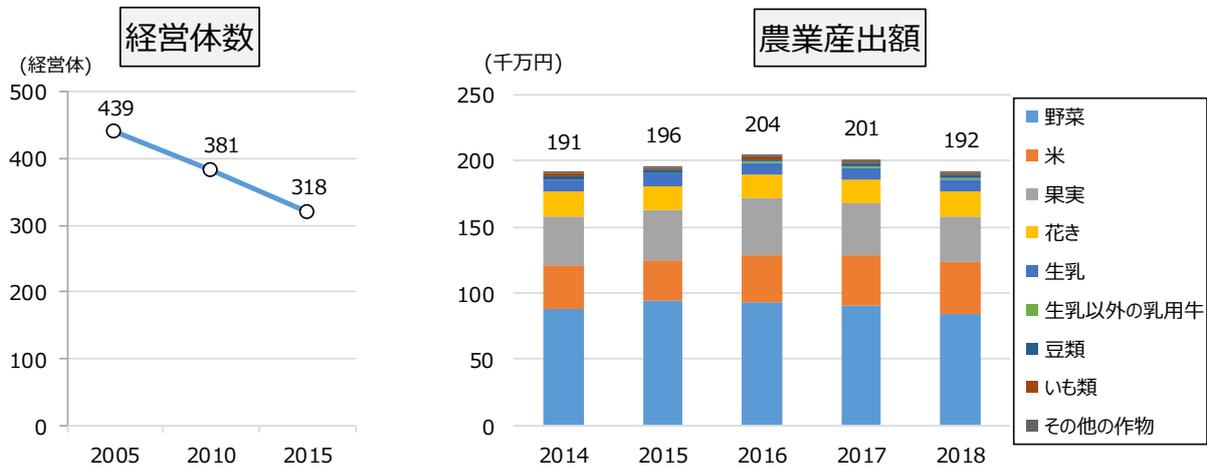


出所：経済産業省「商業統計」

【農業】

本町の農業生産者の平均年齢は67歳、生産者の63.55%が65歳以上となっており、担い手の高齢化が課題となっています。

また、農業経営体数は減少しており、農業産出額も2016年をピークに減少傾向となっています。

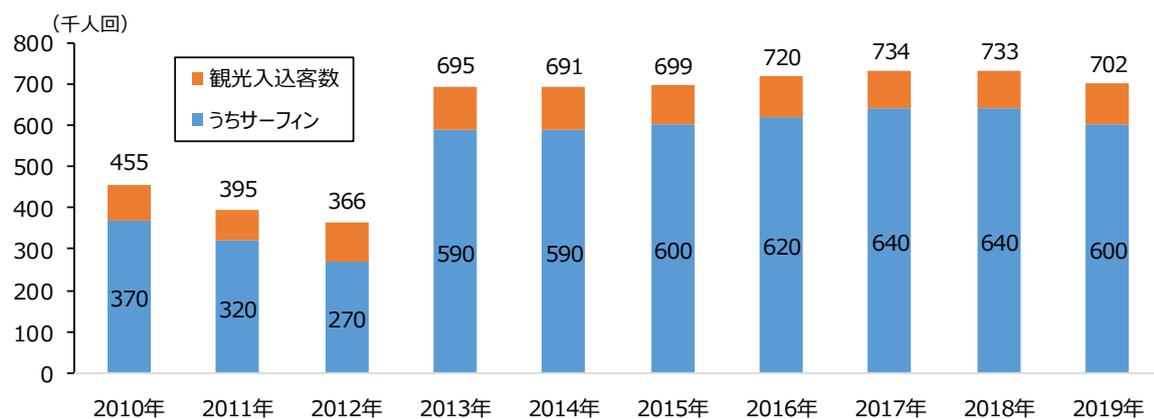


出所：農林水産省「農林業センサス」

出所：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

⑬ 交流人口

本町の観光入込客数は、70.2万人となっており、観光地点の入込客数は長生地域で最も多くなっています。観光入込客の中心である「一宮・東浪見・釣ヶ崎海岸」のサーフィン客は60万人となっており、観光入込客の8割以上を占めています。

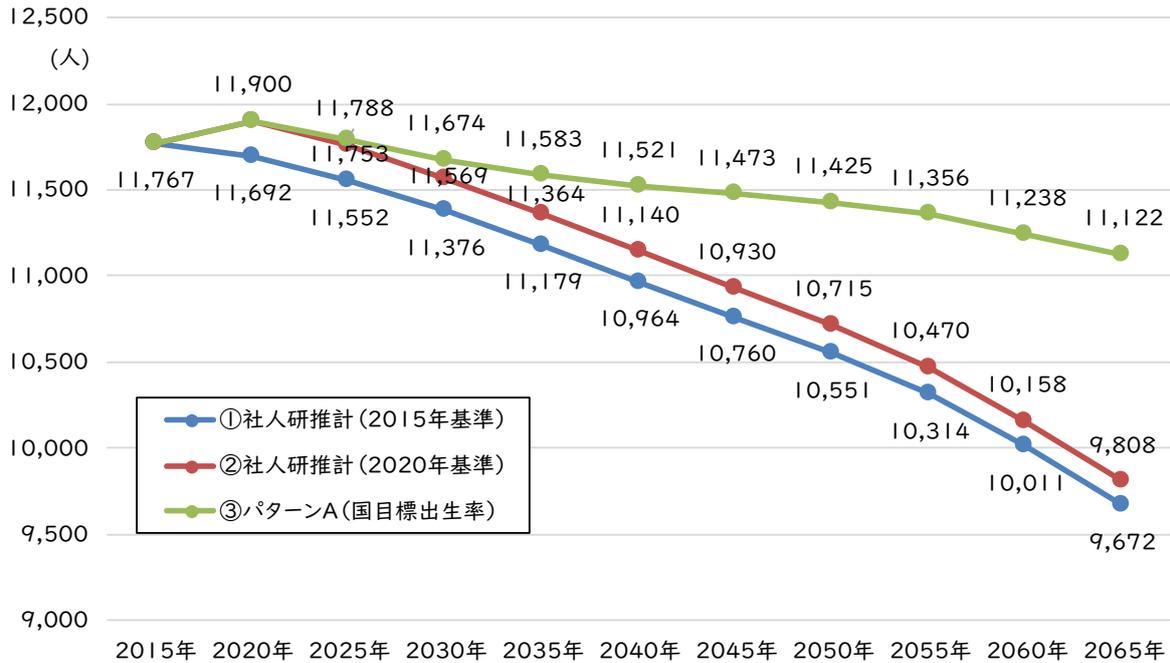


出所：千葉県「観光入込調査」

(2) 将来人口推計

自然減少の拡大等を背景に本町の人口は減少が継続する見通しとなっており、社人研推計では2030年には11,376人となり、2065年には9,672人と1万人を割り込む見通しとなっています。

なお、2030年（2015年比）の減少率は、▲3.3%となっており、県内54市町村で16番目、長生郡市（1市5町1村）では最も減少率が少なくなっています。



出所：国提供の「人口動向分析・将来人口推計のためのワークシート」により推計

	基準人口	出生率	移動率
①	2015年国勢調査	社人研出生率 2030年：1.556 2040年：1.567	社人研移動率（直近2期通算） （転入超過のため、移動均衡より増加）
②	2020年国勢調査（速報）	社人研出生率 2030年：1.556 2040年：1.567	社人研移動率（直近2期通算） （転入超過のため、移動均衡より増加）
③	2020年国勢調査（速報）	2030年：1.8 2040年：2.1	社人研移動率（直近2期通算） （転入超過のため、移動均衡より増加）

(3) 強み・弱み及び課題の整理

人口動態分析で明らかになった本町の強み・弱みは以下のとおりです。

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ○出生率 (P3上) ○転入が転出を上回る社会増が継続 (P2下) ○子育て世代の転入超過 (P3下・P5) ○外国人数が増加 (P4下) ○都心部からの転入 (P6) ○サーフィンを中心とした交流人口 (P10下) ○農業、複合サービス業、宿泊・飲食などで雇用を創出(P8) ○周辺市に比べ将来人口の減少が緩やか (P11) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高齢化が進行 (P1) ◆死亡が出生を上回る自然減が拡大 (P2) ◆就学・就職期の人口流出 (P3下・P5) ◆近隣自治体への人口流出 (P6) ◆町内の従業・通学者の減少 (P7上) ◆農業の担い手が高齢化し、産出額も減少傾向(P10上) ◆将来人口は減少が継続 (P11)



(4) 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析

地域経済の源泉である人口の変化が本町にもたらす影響を整理

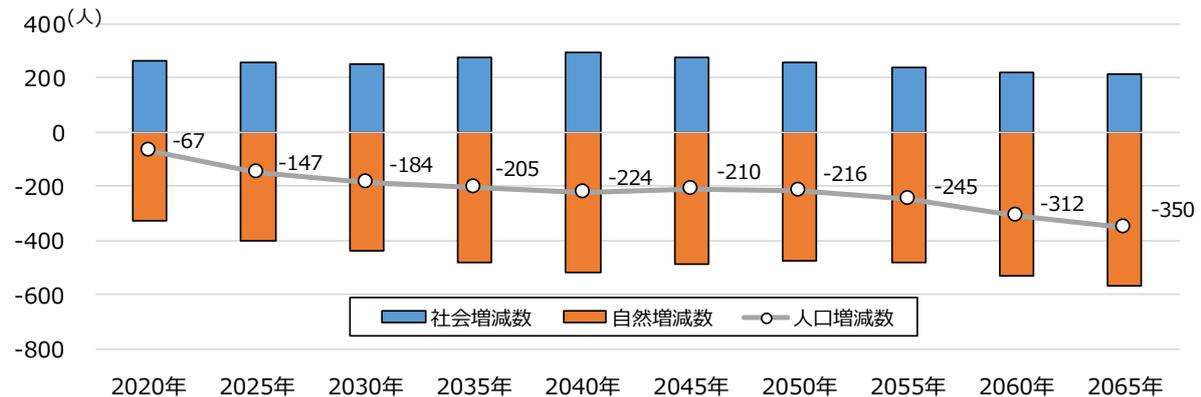
- 経済（担税力の低下、労働力不足）
- 教育（学校規模適正化）
- インフラ維持（公共交通、都市インフラ）
- 税収の減少
- 地域活動の担い手不足（コミュニティ、防災、防犯など）
- 文化・伝統の喪失
- 扶助費の増加（高齢化対応、子育て支援策の拡充）
- 空き家の増加（防犯上の懸念など）
- 耕作放棄地の増加（防災・景観など多面的機能の喪失、有害鳥獣）
- 世帯の小規模化（家庭内の子育て、介護力の低下、高齢者単独世帯への対応など）
- 生活関連サービスの減少（買い物弱者の発生）
- 生活利便性の低下等による負のスパイラル
- 高齢化に伴う医療・介護資源不足

※上記の課題に対する対応策を整理

2. 人口の将来展望

将来移動率等を設定し、パターン別の人口推計を実施したうえで将来展望人口を推計

- 目標人口の設定の有無
- 自然減少は構造的な要因であり避けられないため、出生率の向上、転入増加、転出抑制に向けた方向性を検討（希望出生率の実現、雇用の場確保、地域雇用の創出、交流人口の増加、二地域居住の推進など）



2020年 2025年 2030年 2035年 2040年 2045年 2050年 2055年 2060年 2065年
 出所：国提供の「人口動向分析・将来人口推計のためのワークシート」により推計（推計②における人口増減）

年齢別割合	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
0～14歳	12.9%	13.0%	12.7%	12.5%	12.3%	12.4%	12.4%	12.4%	12.4%	12.4%	12.4%
15～64歳	55.5%	53.8%	53.4%	53.8%	53.2%	50.9%	49.2%	48.4%	48.7%	49.5%	50.5%
65歳以上	31.6%	33.2%	33.8%	33.7%	34.5%	36.7%	38.4%	39.1%	39.0%	38.1%	37.0%
75歳以上	15.2%	16.8%	19.9%	21.0%	20.9%	20.1%	20.7%	23.1%	24.7%	24.9%	23.9%

出所：国提供の「人口動向分析・将来人口推計のためのワークシート」により推計（推計②における人口増減）

	期間内最大値
	期間内最小値